

橿考研特別展「5世紀のヤマト展」と 畝傍山からの展望 2013.5.25.

5世紀初期ヤマト王権時代のヤマトと河内・大阪平野

1306yamato00.htm 2013.6.15. by Mutsu Nakanishi



畝傍山から眺めた奈良盆地西部と金剛・葛城・二上山の山並み 2013.5.25.

大和三山のひとつ「畝傍山」の麓にある橿考研付属博物館で特別展「5世紀のヤマト」展が開催されているのを知って、8世紀邪馬台国が誕生した古墳時代前期に続く日本黎明期、奈良盆地南東部の山裾、三輪山周辺を主核の地とする初期ヤマト王権が展開してゆく古墳時代の中期・後期を勉強するいい機会と5月25日寝原へ出かけました。また、前々から、一度登って周囲を見渡したかった大和三山のひとつ「畝傍山」へ登って、奈良盆地を展望してきました。

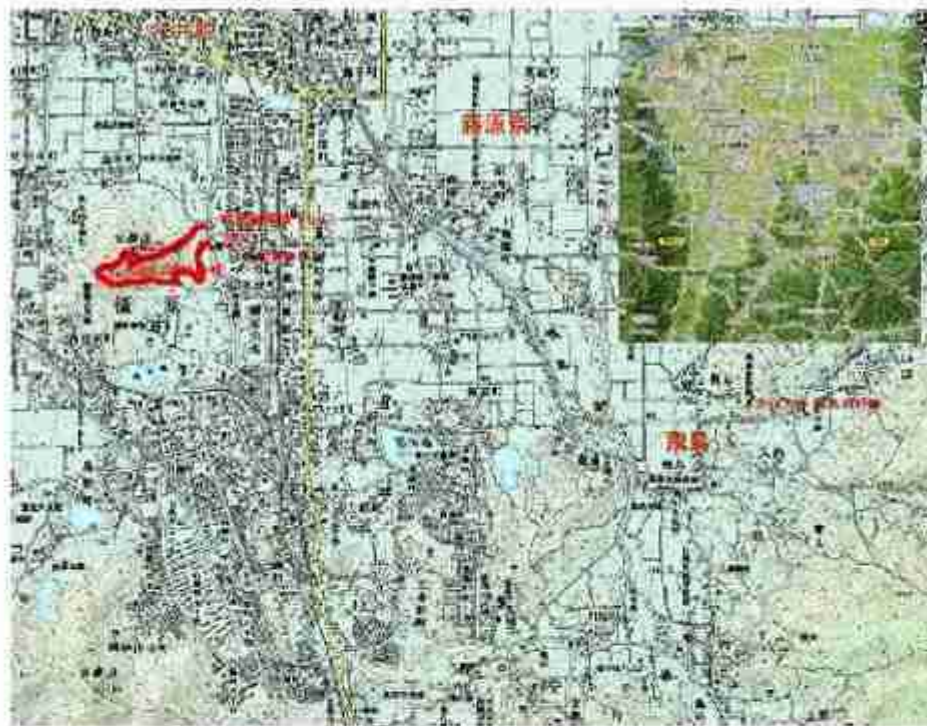
1. 【国策からの再整理 by Mutsu Nakanishi】
橿考研付属博物館特別展 5世紀のヤマト ～まほろばの世界～
2. 【写真アルバム】
大和三山「畝傍山」から 国のまほろば 奈良盆地を眺める



奈良盆地の東側邪馬台山から眺めた甘理丘・雷丘と石壁畝傍山 背後に葛城・金剛の連山



畝傍山から眺めた北東部 天香鼻山



私にとってはブラックボックスだった5世紀のヤマトの「鉄」古墳と墓域そして地域と大王の關係があまりに読みで、統一整理されて展示されていて、初期ヤマト王権当時の畿内の実用鉄器の動きがわかりやすく整理できたのが一番の収穫。特に南河野郡の各遺跡の役割と出土品が丁寧に展示紹介され、遺跡内のつながりがわかることができました。また、大和牛野の古墳群や生原遺跡と王宮のある奈良盆地の關係の見方を知られたのも大きな収穫。

ここ数年何度も関西各地の博物館で開かれてきた大和初期王権についての特別展・企画展が開催され、鉄をキーワードにして理解したい私にはどうもじっくり行かぬことも多かったのですが、今回の特別展の図録と合わせて見ることで、疑問もいくつか解けてうれしい。

鉄が日本の国づくりに果たした役割、特に畿内の実用鉄器の姿が自分なりに理解できてうれしい特別展でした。

また、麓から30分ほど登った最勝山の頂上からは初期ヤマト王権の王城の地がすぐそこに、新緑に包まれて、西に金剛山、東に二上山とどづき、奈良盆地の西の壁を背に広がる奈良盆地、他南西部の基城、北東から北西にかけての広大な牛野郡が鳥瞰でき、反対側の東には天香具山から甘泉の泉の奥に広がる飛鳥が展望できました。また、最勝山のすぐ北側の牛野郡は寺内町として栄えた「今井町」久しぶりに飛鳥へも歩いて、特に「今井町」にも立ち寄って、満足一杯の日でした。

《 檀考研特別展「5世紀のヤマト展」 と畝傍山からの展望 2013.5.25. 》



大和三山のひとつ「畝傍山」の麓にある檀考研付属博物館で特別展「5世紀のヤマト」展が開催されているのを知って、3世紀の邪馬台国の後、奈良盆地南部三輪山周辺を王城の地とする初期ヤマト王権が展開してゆく古墳時代の中期・後期を勉強するいい機会と5月25日檀原へ出かけました。

また、前々から、一度登って周囲を見渡したかった大和三山「畝傍山」へ登って、奈良盆地を展望してきました。

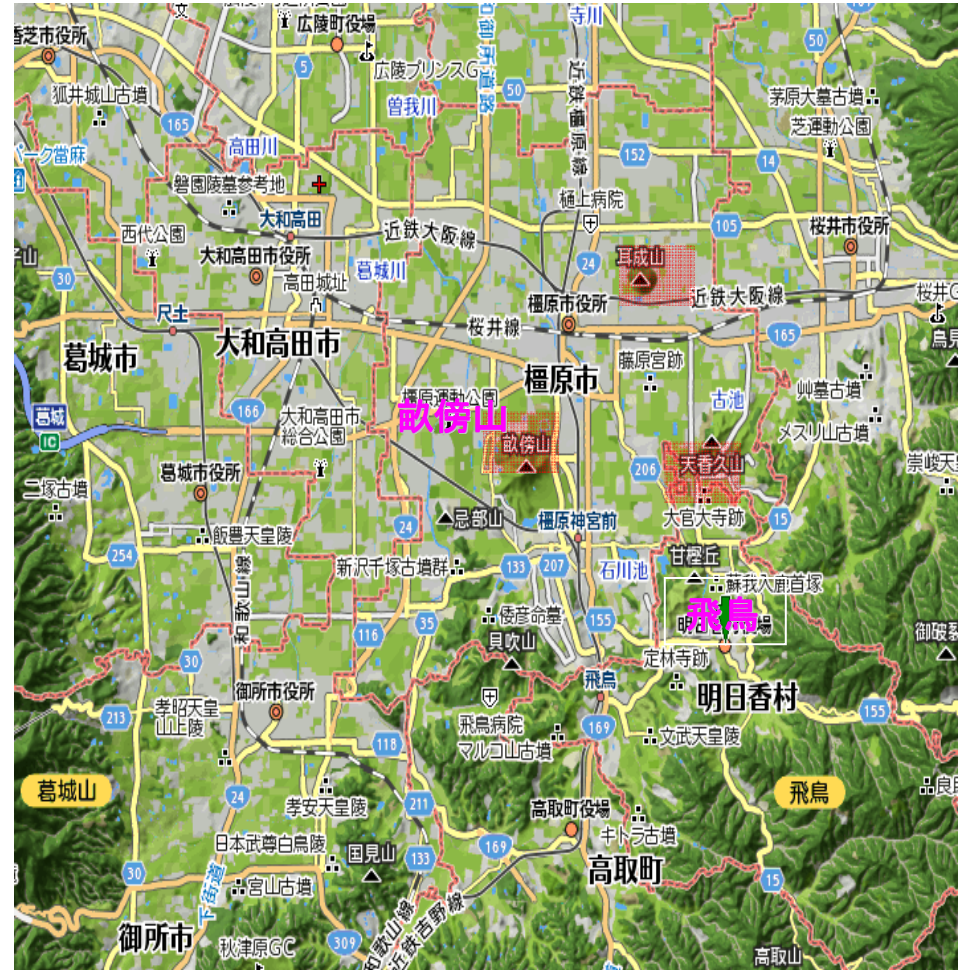
特別展では5世紀の初期ヤマト王権の時代を支えた奈良盆地と河内・大阪平野の二つの地域を並べて、それぞれが果たした役割を遺跡の出土遺構・遺物から展望する展示で、非常にわかりやすく理解が深まりました。

関西でのこの頃の展示というと すぐに遺構・遺物が天皇・豪族など人物特定に走り、時代と地域での事象が ごちゃまぜで、わかりにくいのが常。 うれしい展示でした。

私には知りたかった葛城山麓に広がる南郷遺跡群のこの役割や鉄遺物が見られたこと

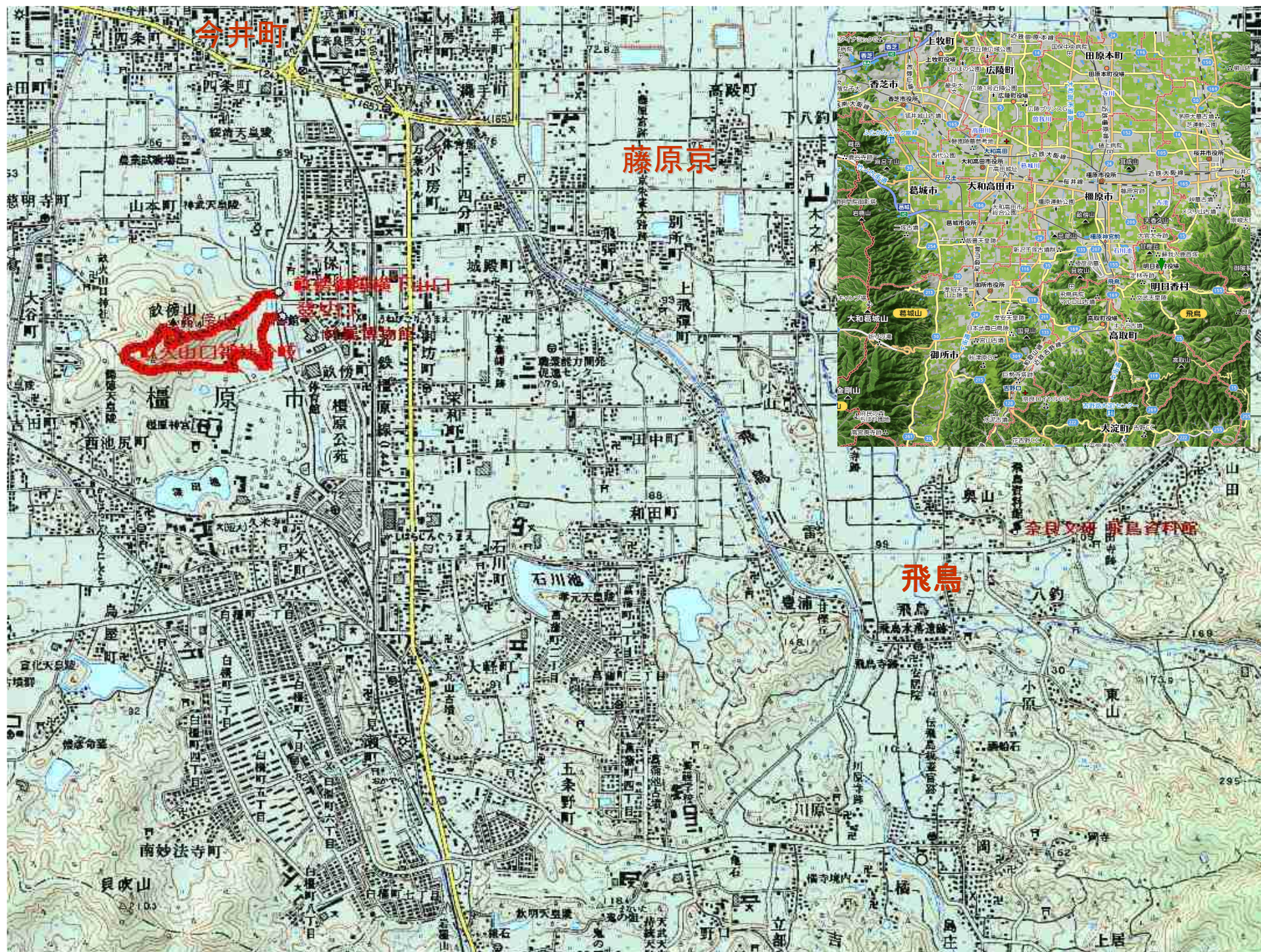
また、河内と奈良 二つの地域で出土した遺跡遺構・遺物が同時進行で比較できたのがうれしい。

先取の気風に富んだ河内の鉄生産工房で次々と新しいタイプの農工具があみだされ、新しい時代を切り開く。一方奈良盆地内では伝統的な刀剣・武具に技を織り込んでゆく。実用鉄器にもこんなに違う視点があるのかと面白い河内と奈良盆地並存の謎解きでした。



また、麓から30分ほどで、登った畝傍山の頂上からは初期ヤマト王権の王城の地がすぐそこに。 新緑に包まれて、西に金剛・葛城・二上山へと続く奈良盆地の西の壁を背に広がる奈良盆地南西部葛城・忍海から北側盆地中央部の広大な平野部そして、 反対側の東には天香具山から甘櫨丘の丘陵の奥に広がる飛鳥が展望できました。

また、畝傍山のすぐ北側の平野部は寺内町として栄えた「今井町」久しぶりに飛鳥へも歩いて、帰りに「今井町」にも立ち寄って、満足一杯の一日でした。



【1】 橿考研付属博物館特別展 5世紀のヤマト ～まほろばの世界 図録の再整理 by Mutsu Nakanishi

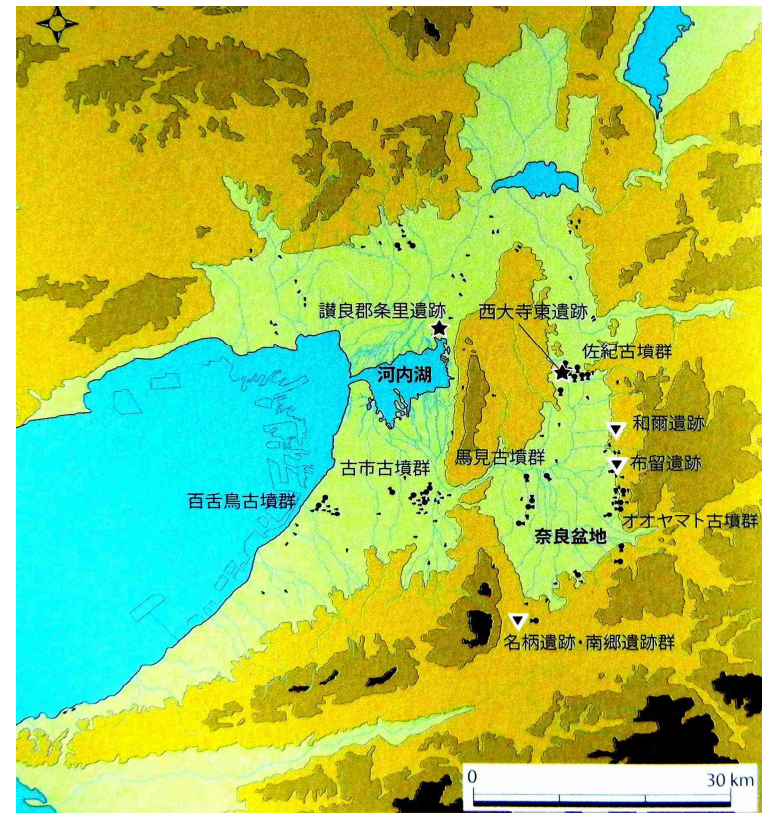
5世紀は「巨大古墳の世紀」と呼ばれ、大阪平野南部の古市・百舌古墳群には大型の前方後円墳が築かれる。

百舌古墳群では **日本列島最大規模の墳丘長486mの大仙古墳**(仁徳天皇陵)や古市古墳群では**列島第2位の規模を持つ墳丘長415mの菅田御廟山古墳**(応神天皇陵)などで、盾形の形態を持つ多重の周濠と幅の広い外堤をそなえ、周濠の内外には小規模古墳を築く。当時の大王の墳墓には間違いはないが、特定人物に対応させるのは難しい。

一方 3世紀いち早く前方後円墳が成立した地域は奈良盆地の東南部のオオヤマト古墳群に5世紀に巨大前方後円墳が築造されることはなかったが、盆地北部の**佐紀古墳群**や盆地西部の**馬見古墳群**には巨大前方後円墳が築造される。

奈良盆地西北部の南郷遺跡群は5世紀代の集落範囲が2平方キロメートルに及ぶ**大型建物を有する大集落**で、遺跡に近在して 墳丘長238mの前方後円墳室宮山古墳があり、ダム状遺溝を有する導水設備が出土。奈良盆地北部の佐紀古墳群に近在してこの古墳群に関連する大型建物遺構も見つかっている。(西大寺東遺跡)

さらに 河内湖の北岸には5世紀代の百済系渡来集団の居住地(**讃良郡条里遺跡**)が確認されている。渡来人・先進技術の受け入れ窓口として河内湖が機能していたことが推察され、ここを通じて、数多くの渡来集団が大阪平野(河内)・奈良盆地に居住した。



大型古墳群と巨大集落・「王宮」関連遺跡

5世紀 奈良盆地やその周辺では5世紀盆地全体にわたって、数多くの大集落があり、また、数多くの渡来人が居住した痕跡が残る。これらは奈良盆地の有力豪族の根拠地とされ、王権を支えた。(和邇・葛城・物部など)

一方、港湾として先進文化・渡来集団の受け入れ窓口となり、流通の拠点となった河内湖がある大阪平野(河内)。

巨大古墳を築くと共に、それらを可能なら占めた技術など先進技術の大生産地となって、王権を支えた。

これらの事象が示すごとく、5世紀の政治の中心地は 大阪平野と奈良盆地の両者にあった。

王墓は河内など奈良盆地の外へも移ったが、「王宮」など政治の中心は引き続き奈良盆地であり、7世紀半ばにいたるまで奈良盆地は政治の中心であり続ける。 ---橿考研付属博物館特別展 5世紀のヤマト ～まほろばの世界～ 図録より

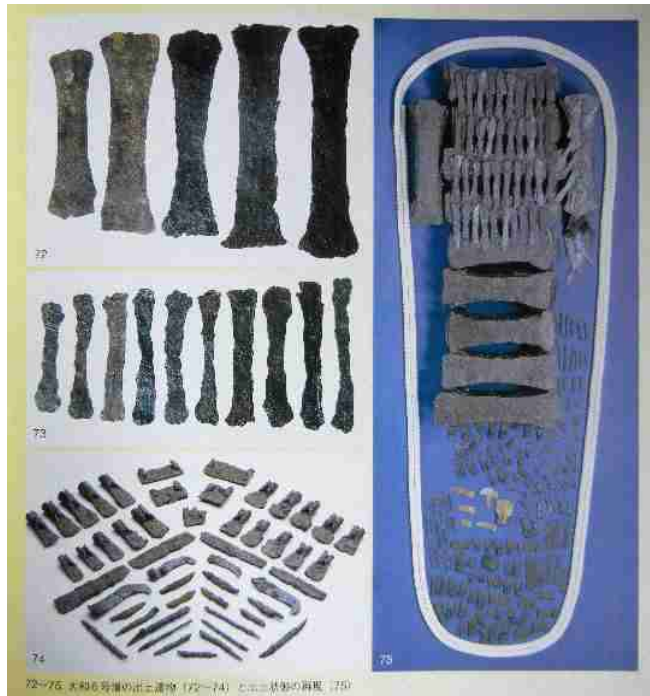
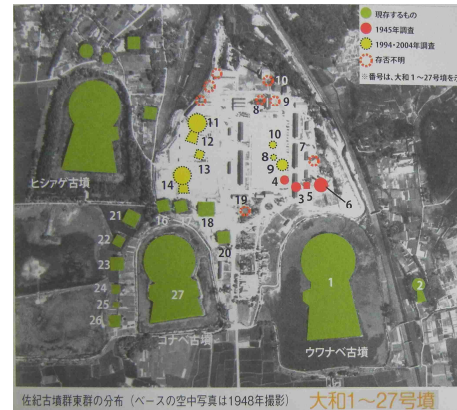
「巨大古墳の時代」と呼ばれる5世紀 巨大前方後円墳の築造は鉄器なくしてはなしえない。「実用鉄器の時代 鉄の5世紀」国づくりの力の源泉として 治水・農耕具・武器・武具として、この5世紀王権を支えた鉄器。

畿内の実用鉄器が威信財から脱し、どんな風に活躍していったのか？ ブラックボックスの4・5世紀を知りたくて、特別展へ

《 5世紀の巨大古墳には大量の鉄製品など 副葬品の格納庫(陪塚)を持つものが存在 》

【佐紀古墳群 ウワナベ古墳 陪塚 大和6号墳】

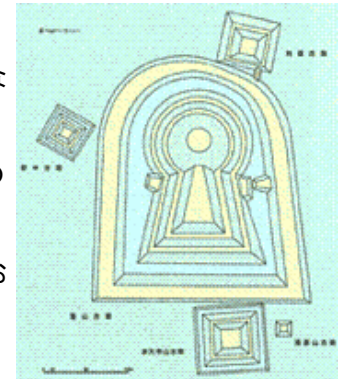
大和6号墳は、佐紀古墳群のウワナベ古墳の陪塚とされる5世紀中葉の直径25mの円墳で、墳頂部から多数の鉄製品を埋納された施設が見つかった。人体埋葬のない異物格納庫で、西側に合計872点の大小鉄ティを重ねあわせ、東側に718点の小型農工具・滑石模造品6点の斧形1点の鎌形が出土。鉄ティの出土量は全国一で、朝鮮半島南部から輸入された鉄素材であると考えられている。



【古市古墳群 墓山古墳 陪塚 西墓山古墳】

西墓山古墳は、一辺18メートルの方墳で、墳端に円筒埴輪列をめぐらせ、斜面には葺石を施していました。古墳の中央部には、8×4メートルの大きな穴を掘り、内部に長さ6メートル、幅60センチの細長い木箱2つを東西に並べていました。東側の箱には、刀や剣といった200点を超える武器、西側の箱には、鍬や鎌、ヤリガンナといった農工具類2000点以上が納められていました。

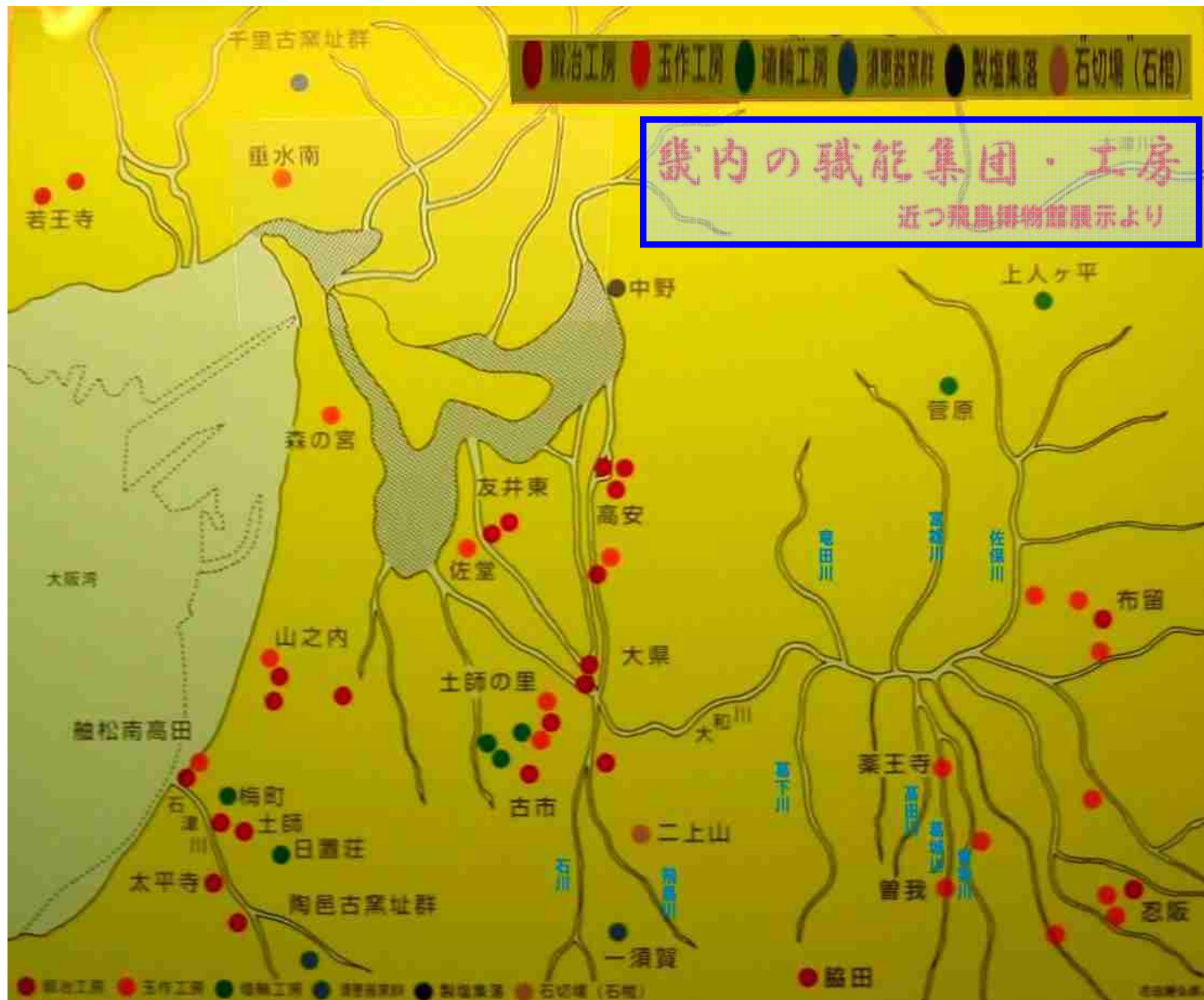
この施設は西 墓山古墳のほぼ中心に作られており、人体を埋葬した痕跡は見当たりませんでした。つまり西墓山古墳は、当初から人体の埋葬を目的とせず、鉄製品の埋納を目的とした「副葬用陪塚」として計画されたものと考えられる。



木箱は、石や粘土などで特別な保護施設を作らず、大きな墓穴の中に直接置いて埋め戻されていた。木箱はは長方体の箱形をしており、その中にはびっしりと鉄製品が納められていたこと。東側の箱には、鉄の刀と剣が5群に分けて入れられ、南北両端には短剣が入っていました

5世紀 ヤマト王権を支えた大王の主要生産遺跡 と 有力豪族の本拠地

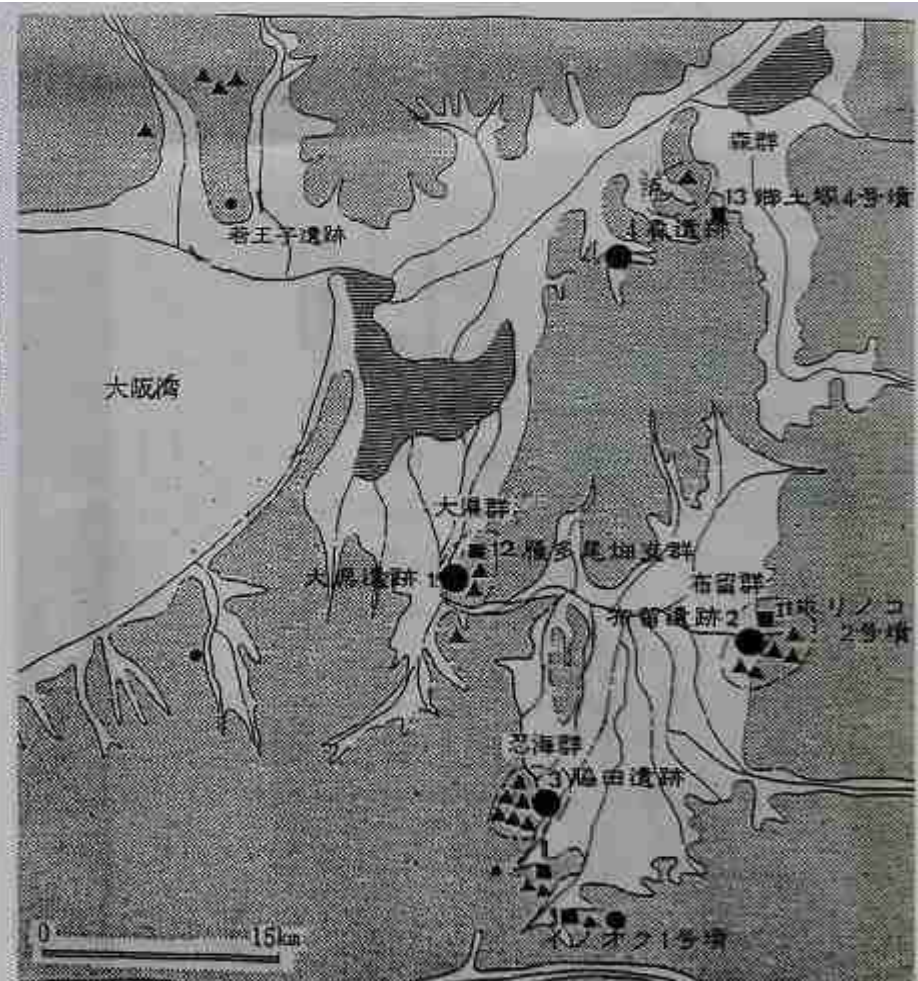




王権を支えた畿内古墳時代の鍛冶工房群



I・II期の鍛冶工房 古墳前期(I期)・中期の工房(II期)



III期の鍛冶工房 古墳後期(III期)の工房

- 鍛冶工房 ■ 鍛冶具
- 專業集落 ▲ 鉄滓副葬
- A ◆ 古墳時代前期(I期)の鍛冶工房

古墳前期(I期)・中期の工房(II期)

1. 大和遺跡 2. 布留遺跡
3. 脇田遺跡 4. 森遺跡
5. 百舌鳥大塚山古墳

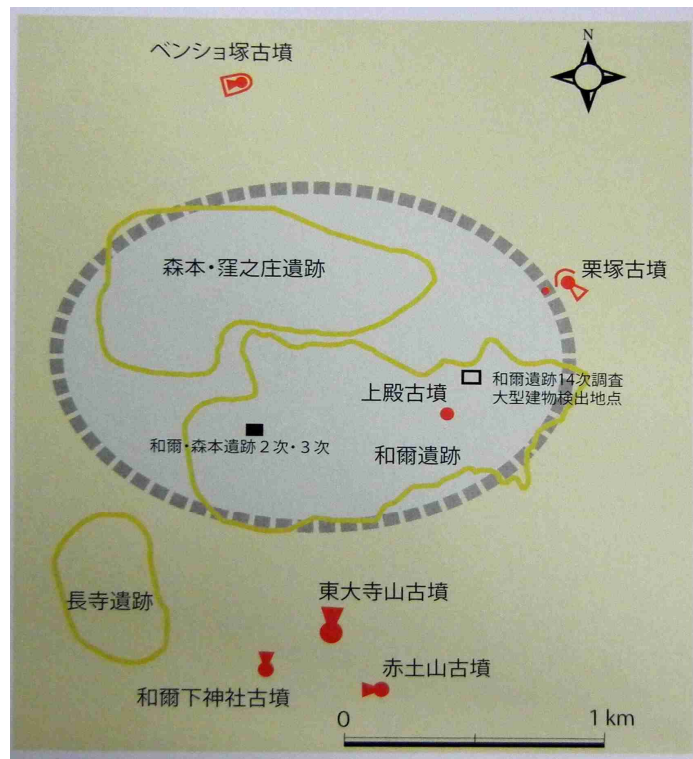
古墳後期(III期)の工房

6. 忍海12号墳 7. 五条塚古墳
9. イノオク1号墳 10. 雲地寺2号墳
11. ホリノコ2号墳 12. 藤多尾畑支群
13. 郷土塚4号墳

5世紀 王権を支えた 大王の主要生産遺跡 と 有力豪族の本拠地



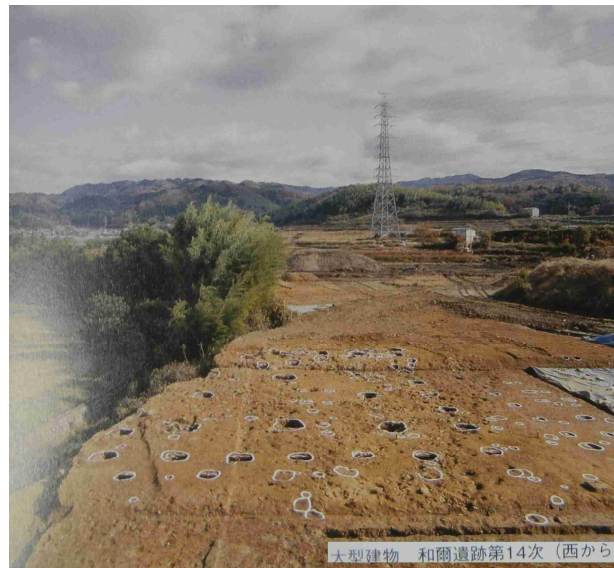
5世紀 王権を支えた有力豪族の本拠地の鉄(1) 和爾氏の本拠地 和爾遺跡 & ベンショ塚古墳



奈良盆地の北東部天理市和爾町・森本町に跨る和爾遺跡
その北には奈良市窪之庄町・天理市森本町に跨る森本・窪之庄遺跡がある。全体が大規模な集落域ではないが、弥生の終わりから古墳時代にかけて種々の遺構・遺物が点在分布。この2平方キロメートルの域は大王と親縁関係のある和爾氏の本拠地。

5世紀代では大型建物や井戸・河跡が出土。特にこの丘陵頂部からは「祭殿」・「高殿」の性格を持つ3棟の掘立建物が出土している。

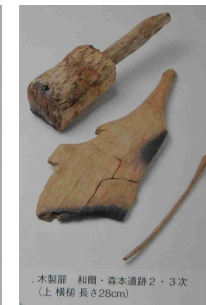
また、周辺の墳丘長70mの前方後円墳 ベンショ塚古墳からは鉄製の甲冑・馬具・農工具などが出土。



大型建物 和爾遺跡第14次 (西から)



木製扉 和爾・森本遺跡2次
(高さ73cm)



木製扉 和爾・森本遺跡2・3次
(上横紐長さ28cm)



環状雲珠 ベンショ塚古墳 (環部直径5.8cm)



鉄剣 ベンショ塚古墳 (長さ9cm)



薄石製有孔円板 ベンショ塚古墳

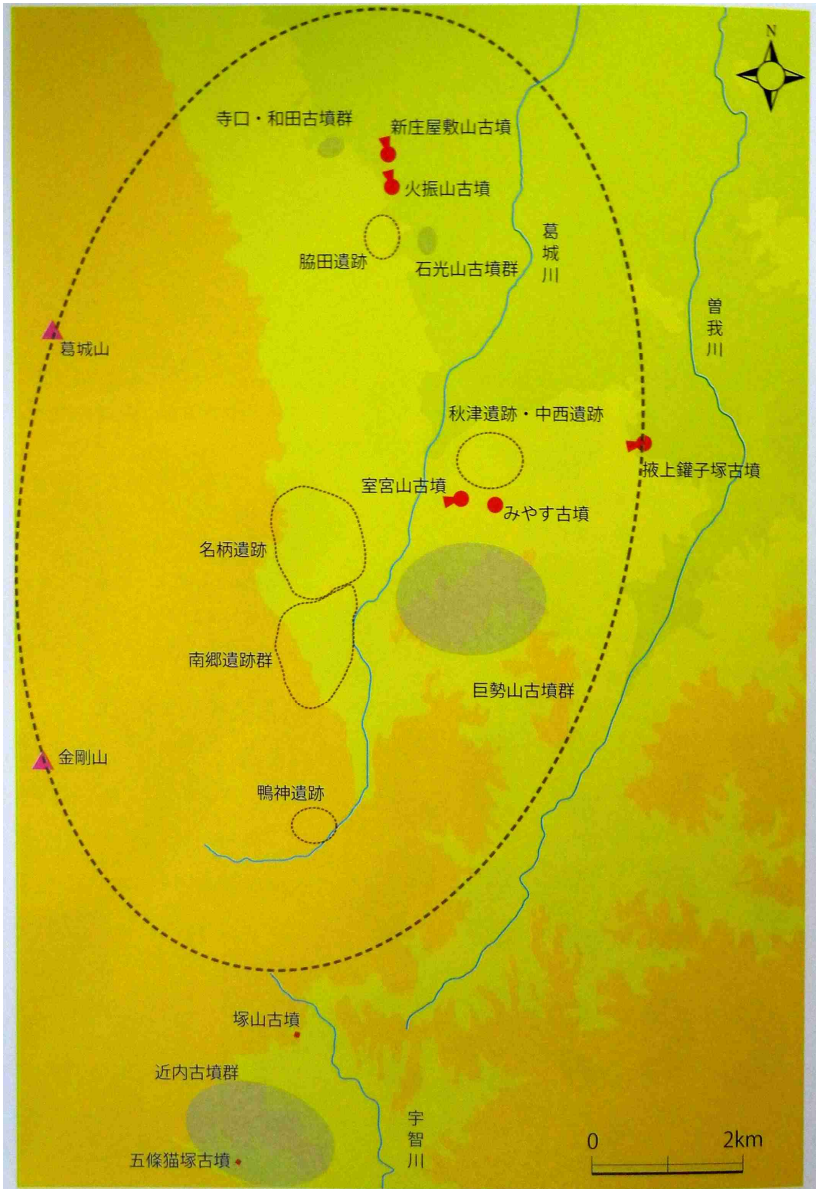


鉄斧 ベンショ塚古墳 (長さ9cm)



薄石製勾玉 ベンショ塚古墳 (左上2cm)

5世紀王 権を支えた有力豪族の本拠地の鉄(2) 葛城氏の本拠地 葛城 南郷遺跡群



カヅラギの本拠地と周辺の遺跡（破線は葛城の四邑を中心とした「小葛城説」に基づく葛城氏の勢力範囲）

奈良盆地西南部の葛城山麓・金剛山麓は5世紀代の集落遺跡や古墳が集中する。葛城山東麓に脇田集落遺跡 前方後円墳として、新庄屋敷山古墳・火振山古墳があり、また、寺口・和田古墳群、石光寺古墳群、寺口忍海古墳群などの群集墳がある。金剛山東麓には名柄遺跡と南郷遺跡群 前方後円墳としては室宮山古墳がある。この地域周辺部にある掖上罐子塚古墳は室宮山古墳に引き続いて築造された古墳で、南郷遺跡群に並行する年代に築造。

特に名柄遺跡と南郷遺跡群は大王に比肩するほどの権力を持っていたと考えられる葛城氏の本拠地である。

脇田集落遺跡内で鍛冶関連遺物が出土し、鉄器生産が行われていた。同じ鉄遺物が出土する寺口・忍海古墳群と関連があると見られ、また、韓式系軟質土器の出土から渡来系の鉄器生産工人と関係が深い。

南郷遺跡群では5世紀代さまざまな特徴を持つ施設・建物が出土。

首長の高殿・祭殿と導水設備・・・極楽寺ヒビキ遺跡・南郷安田遺跡・南郷大東遺跡

首長の居住地・・・多田・松木本遺跡 武器生産等の複合工房・・・南郷・角田遺跡

大型倉庫群・・・井戸大田台遺跡

手工業生産の指導中間層の居所・・・南郷柳原遺跡

鉄器生産・窯業生産・ガラス生産など手工業生産に携わった一般者居所・・・下茶屋力

マ田遺跡・南郷千部遺跡・南郷生家遺跡・南郷田鶴遺跡・佐田杣ノ木遺跡

佐田クノ木遺跡・林遺跡・井戸池田遺跡

一般層の墓地・・・南郷九山遺跡・南郷岩下遺跡



152. 南郷遺跡群と周辺遺跡



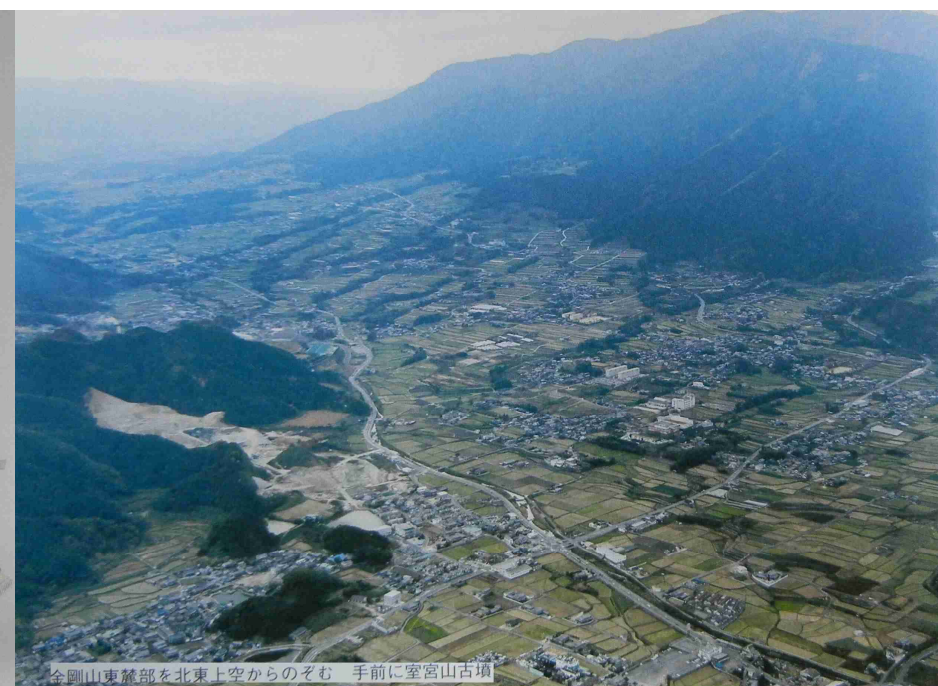
葛城氏の本拠地 南郷遺跡群がある金剛山東麓

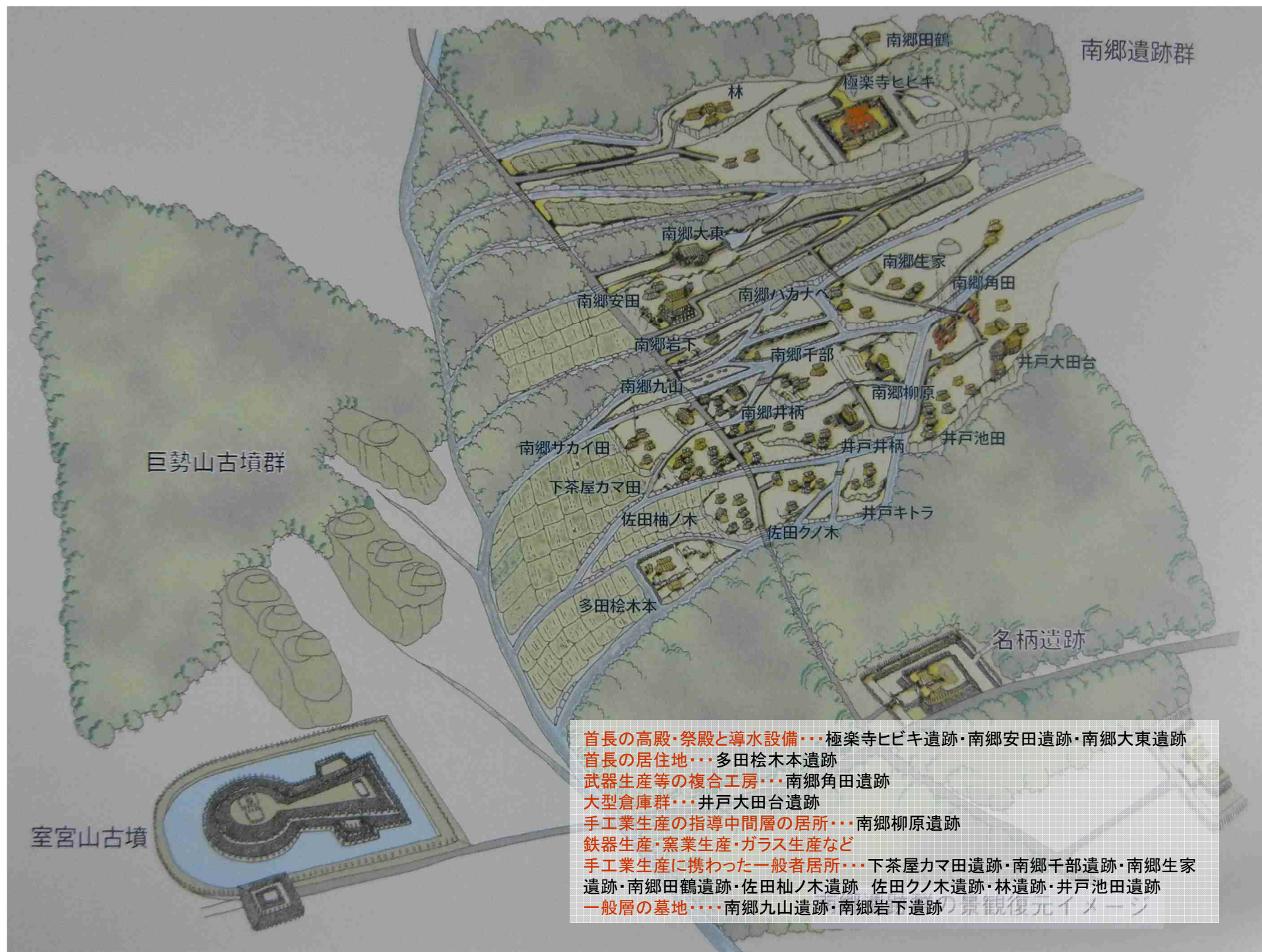
金剛山東麓部を北東上空からのぞむ 手前に室宮山古墳





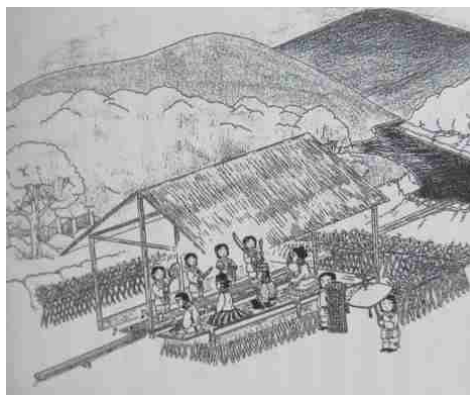
金剛・葛城山の東山麓 葛城氏の鍛冶生産工房群 南郷遺跡分布図







極楽寺ヒビキ遺跡「祭殿」



南郷大東遺跡導水設備



南郷安田遺跡「高殿」



南郷安田遺跡の大型建物

木柱 南郷安田遺跡 (左端上 高さ150cm・直径30cm)

《南郷遺跡群での鉄器生産・窯業生産・ガラス生産など手工業生産》



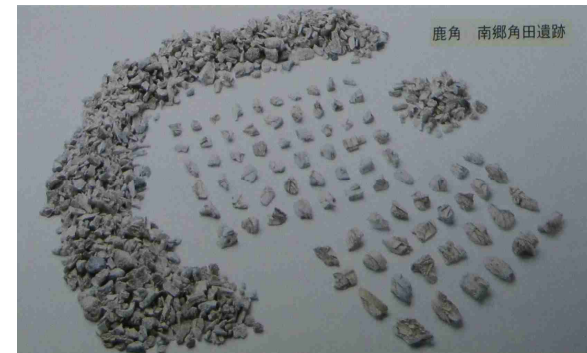
複合工房の遺物 南郷角田遺跡 (中央 小札片 長さ3cm)

中央左下:銀滴 中央上:ガラス製品・ガラス滓 左下:銅滴・銅滓



小鉄片 南郷角田遺跡 (鉄片 幅 0.5~1 cm)

角田遺跡の工房内でもっとも多く確認されたのが、小鉄片で総重量1kg 小さい穴があいたものもある鍛造剥片。
この遺跡からは轡・羽口が出土しないことから、鍛造だけが行われていたわけではない。



鹿角 南郷角田遺跡



轡羽口・鉄滓 下茶屋カマ田遺跡 (左下 轡羽口 長さ11.0cm)



玉原材料 (右)・未製品 (中央) 下茶屋カマ田遺跡



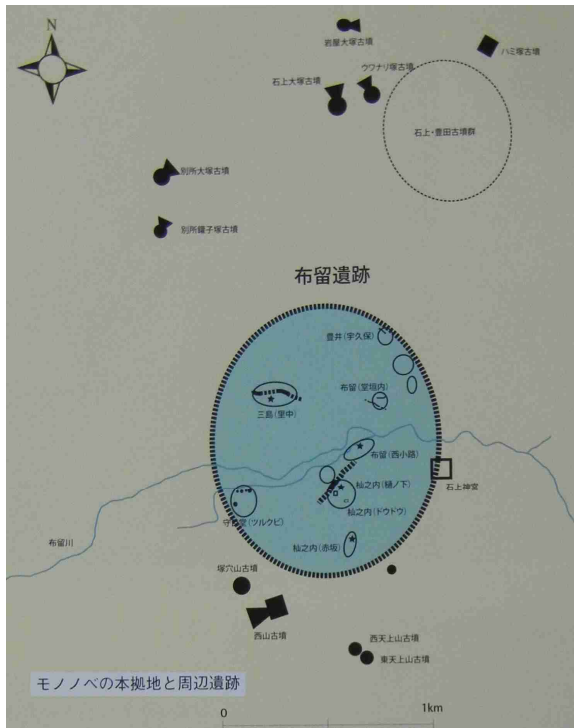
ガラス小玉の鋳型
佐田柚の木遺跡 (幅2.4cm)

渡来人 韓式軟質土器・甑
百済系甑



韓式系軟質土器 甑 井戸井柄遺跡
(高さ21cm)

5世紀 王権を支えた有力豪族の本拠地の鉄(3) 物部氏の本拠地 布留 布留遺跡



布留遺跡は奈良盆地東南部の天理市布留町・三島町・杣之内町に広がる縄文～江戸時代までの複合遺跡。古墳時代には広大な範囲で集落が広がり、5世紀～6世紀後半に最盛期を迎え、南郷遺跡と並ぶ巨大集落遺跡。6世紀の政治の帰趨を握った物部氏の本拠地である。

南よりの杣之内(樋ノ下・ドウドウ)地区からは大型建物と大溝、杣之内アゼクラ地区から居館遺構。豊井(宇久保)地区から祭祀関連遺物。遺跡内各所から手工業関連遺物が出土しているが、とりわけ 三島・里中地区では武器生産を行っていたと考えられる。

布留遺跡の手工業生産

祭祀関連遺物



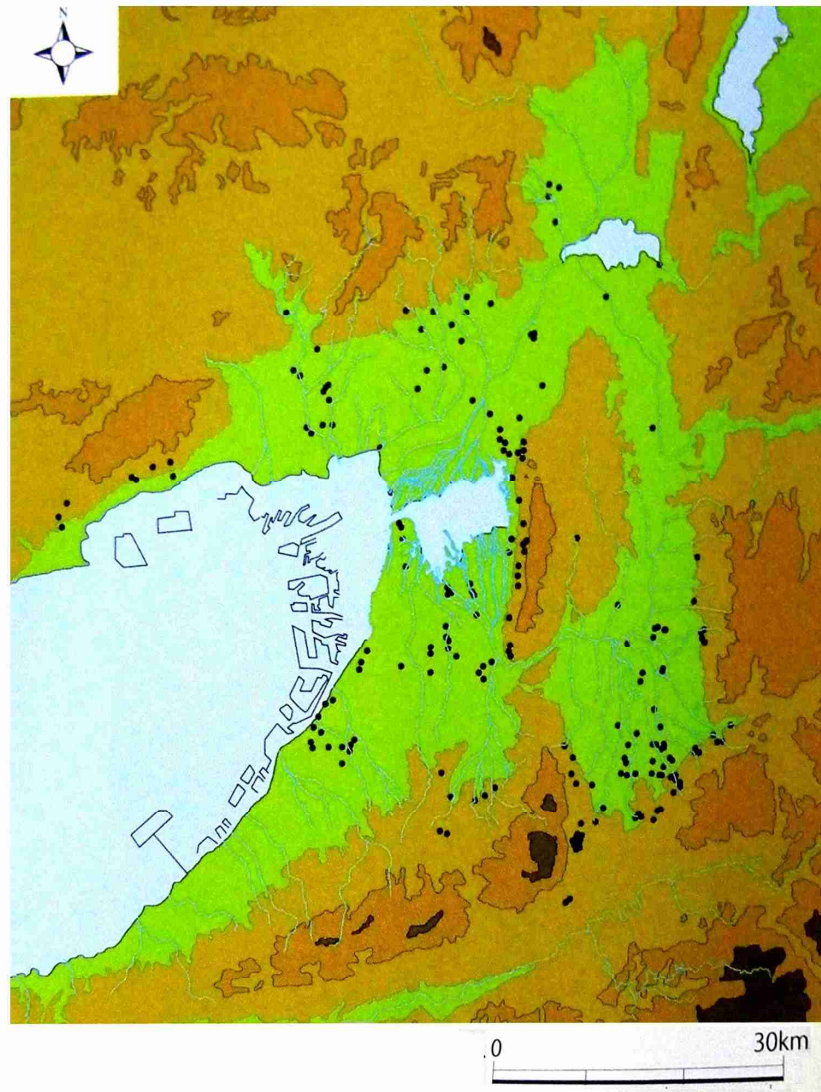


渡来人 陶質土器・高杯 典型的な伽耶系土器

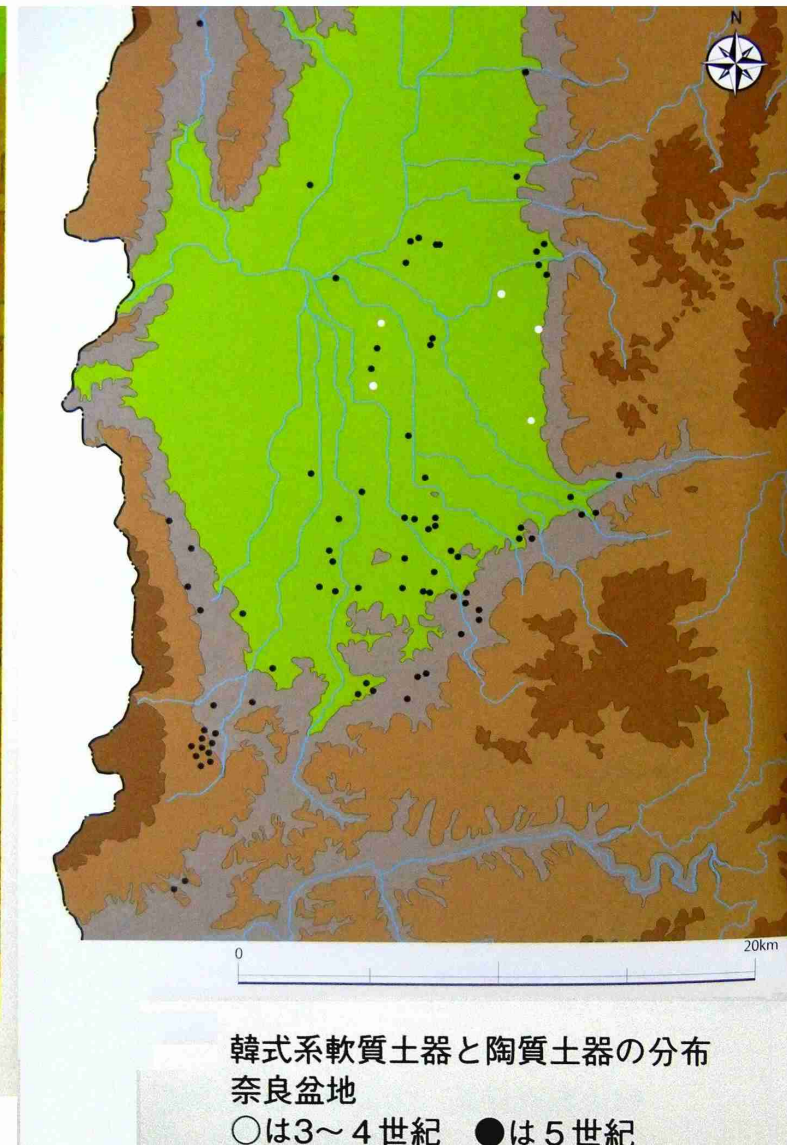


韓式土器の分布 と渡来人

遺跡内から出土する韓式系軟質土器や陶質土器とその関連資料は 朝鮮半島系渡来人居住した証明
河内湖周辺では馬飼集団の居住地葎屋北遺跡のほか 長原遺跡、陶邑古窯群周辺に集中し、渡来人が生産
技術の移植に深くかかわったと考えられる。
奈良盆地ではカツラギ・モノノベの有力豪族の本拠地での生産活動にかかわったほか、盆地中央部・南部の
土地開発に深くかかわったと理解される。



近畿地方中央部における韓式系軟質土器の分布



私にとってはブラックボックスだった5世紀 古墳と集落そして地域と大王の関係がおなじ視点で、統一整理されて展示されていて 初期ヤマト王権当時の畿内の実用鉄器の動きがわかりやすく整理できたのが一番の収穫。
特に南郷遺跡群の各遺跡の役割と出土品が丁寧に展示紹介され、遺跡内のつながりを知ることができました。
また、大阪平野の古墳群や生産遺跡と王宮のある奈良盆地の関係の見方を知りえたのも大きな収穫。

ここ数年何度となく関西各地の博物館で開かれてきた大和初期王権についての特別展・企画展
鉄をキーワードにして理解したい私には どうもじっくり行かぬことも多かったのですが、今 図録を引っ張り出して 今回の特別展の図録とをあわせて見ることで、疑問もいくつか解けてうれしい。

鉄が日本の国づくりに果たした役割 特に畿内の実用鉄器の姿が自分なりに理解できてうれしい特別展でした。

【整理資料】

橿考研付属博物館 2013 春季特別展 図録「5世紀のヤマト ～まほろばの世界～」

【参考図録】

1. 近つ飛鳥博物館平成22年度秋季特別展 図録「鉄とヤマト王権 - 邪馬台国から百舌鳥・古市古墳群の時代へ」
2. 近つ飛鳥博物館平成20年度冬季特別展 図録「百舌鳥・古市大古墳群展 -巨大古墳の時代- 」
3. 天理参考館 2012特別展 図録「大布留遺跡展」
4. 高槻市しろあと歴史館 秋季特別展 図録「三島古墳群の成立 - 初期ヤマト政権と淀川 - 」

【和鉄の道・Iron Road】

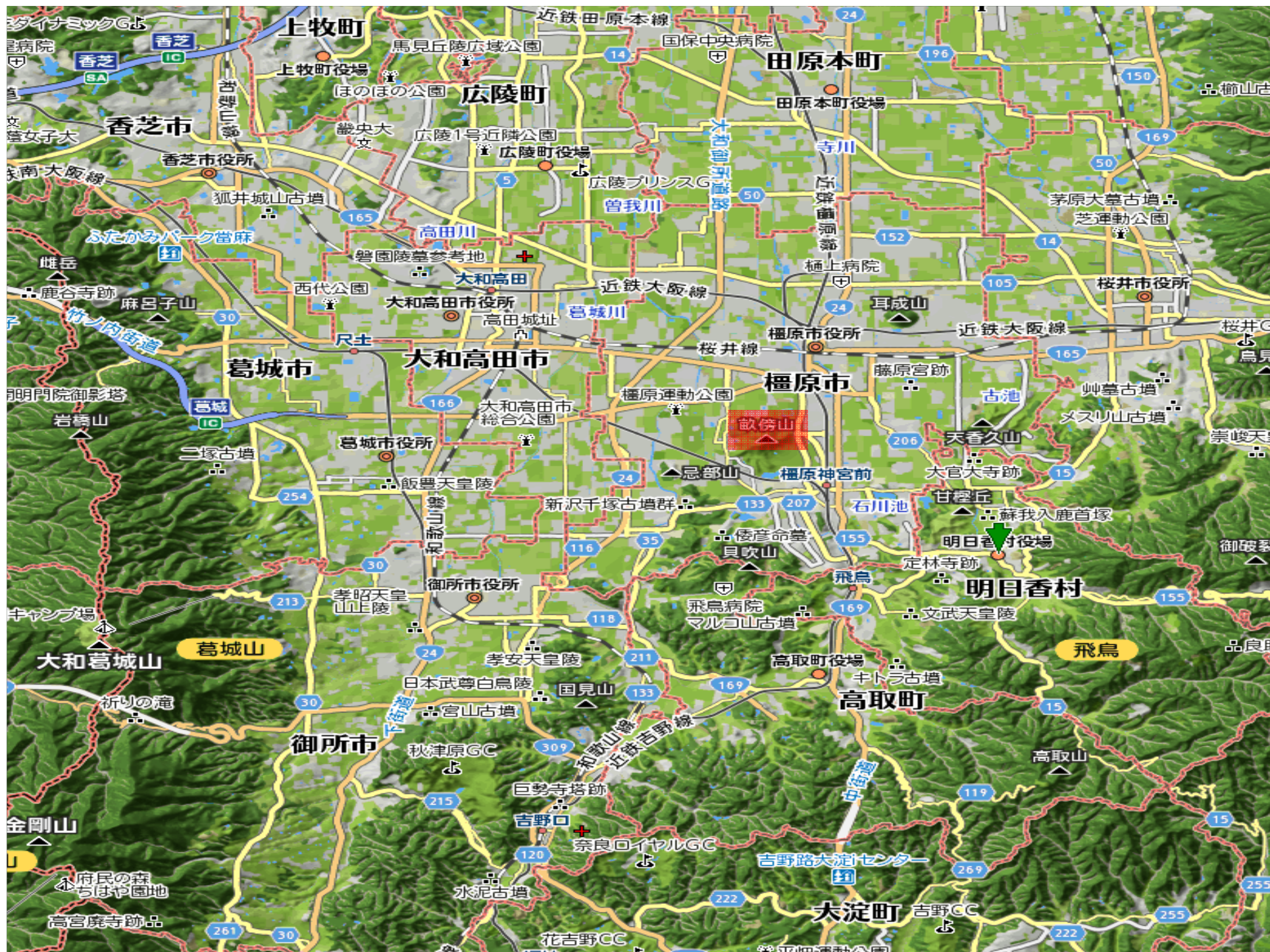
1. 初期ヤマト王権を支えた物部氏の本拠地「布留遺跡」再訪Walk 2012.5.19. <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/12iron05.pdf>
2. 古代「紀路」紀ノ川の流れに沿って大和へ Country Walk <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/7iron15.pdf>
3. 金剛・葛城 山麓 葛城氏の鍛冶工房「忍海」 渡来人が鉄鍛冶の技術を伝えた古代「忍海」 <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/5iron05.pdf>
4. 「鉄の 5,6世紀」大和の日本統一を支えた大規模専業鍛冶工房 大県製鉄遺跡探訪 <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron12.pdf>
5. 鉄の山「三輪山」とその山麓 初期大和政権が王城の地に求めた産鉄の地 <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron08.pdf>
ほか

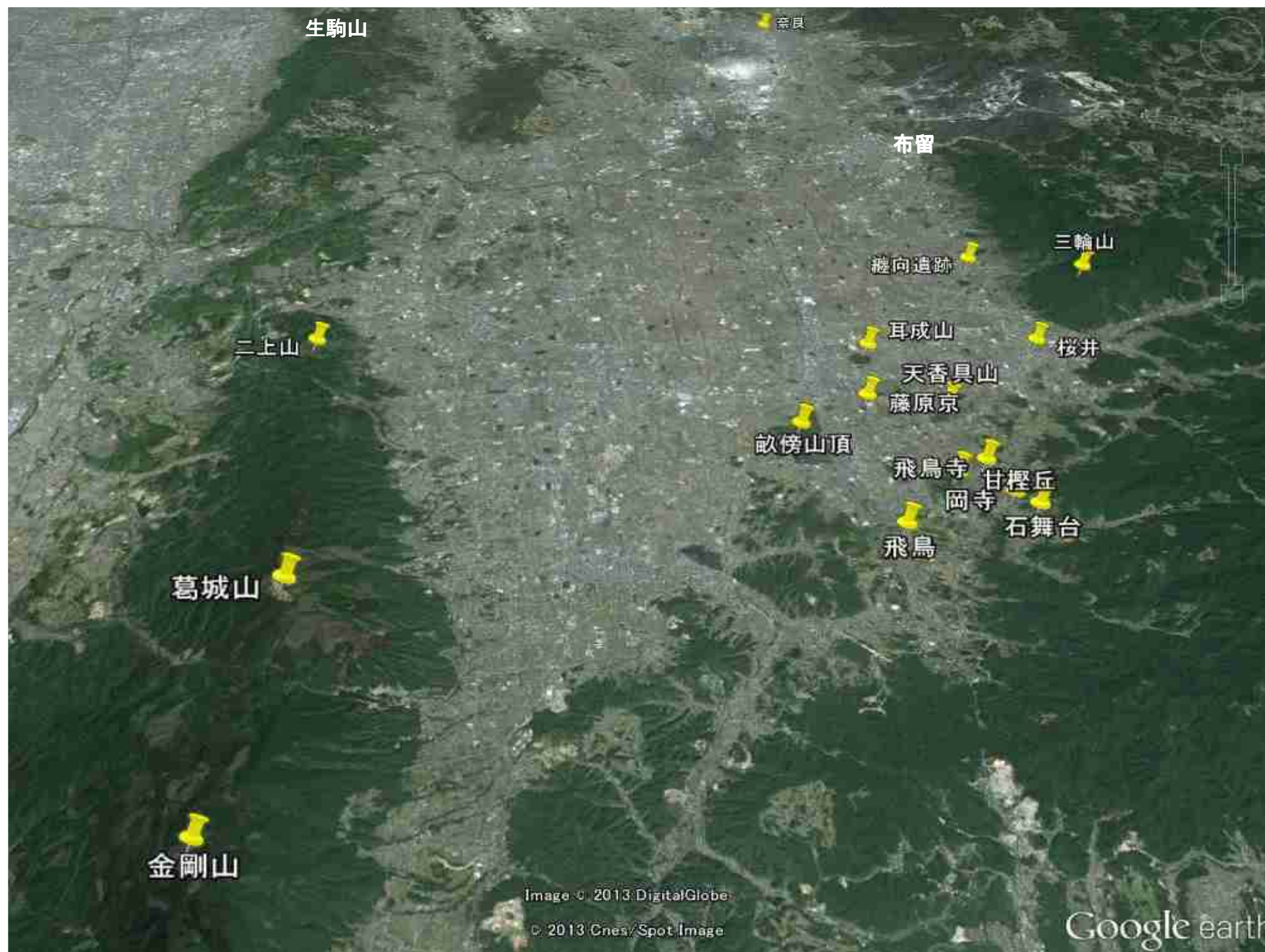
【2】大和三山「畝傍山」から 国のまほろば 奈良盆地を眺める

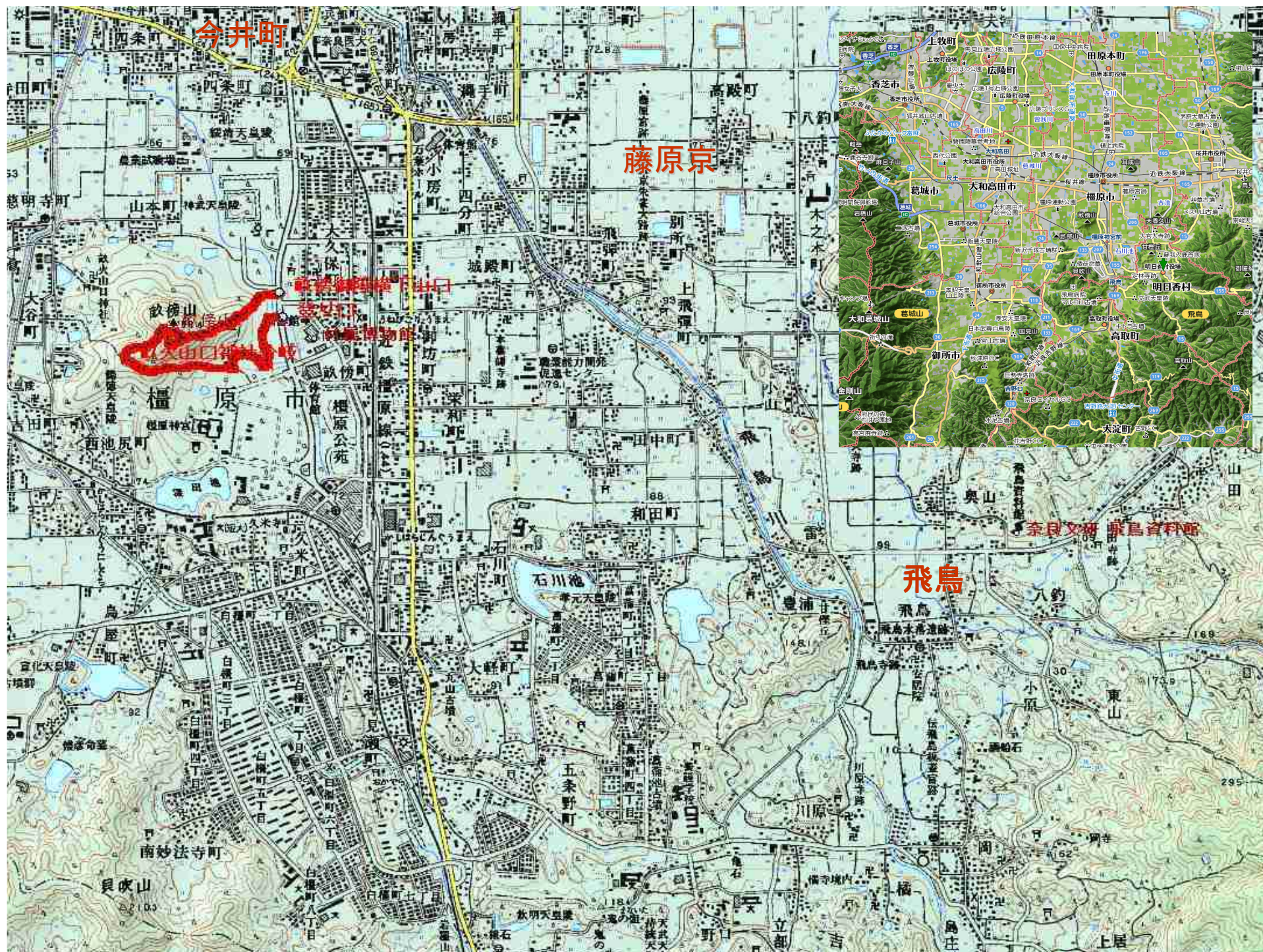
畝傍山 & 飛鳥奥山 Walk 2013.5.25.



飛鳥奥山より 雷丘と畝傍山遠望 2013. 5. 25.

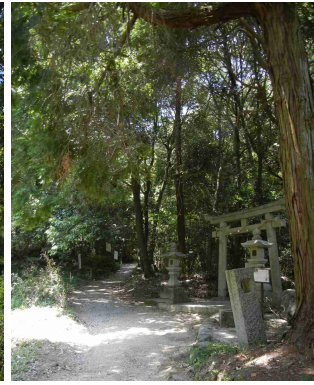
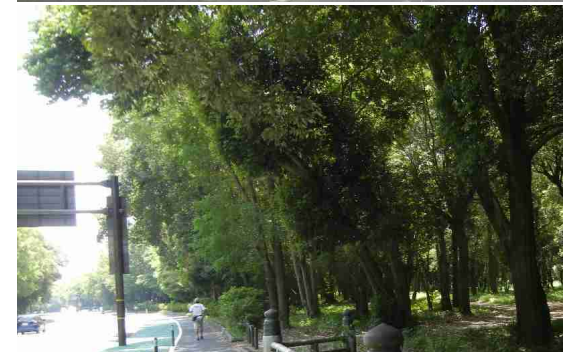








「倭は国のまほろば」大和三山「畝傍山」より 奈良盆地を眺める 2013. 5. 25.



畝傍御陵前南北の広い道路 池田神社の境内の奥に畝傍山登山口がありました



名勝 大和三山 畝傍山

平成十八年三月建設

名勝 大和三山 畝傍山

平成十七年七月十四日 文部科学省指定

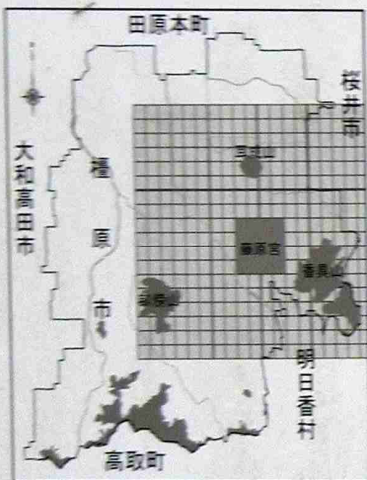


奈良盆地の南部に位置する、香具山（一五二・四m）、畝傍山（一九九・二m）、耳成山（一三九・七m）の三つの小高い山を総称し、大和三山と呼びます。香具山は桜井市の多武峰から北西に延びた尾根が浸食により切り離され小丘陵として残存したもので、畝傍山と耳成山は盆地から聳えるいわゆる死火山です。

三つの山は古来、有力氏族の祖神など、この地方に住み着いた神々が鎮まる地として神聖視され、その山中や麓に天香山神社、畝火山口坐神社、耳成山口神社などが祀られてきました。また、皇宮造宮の好適地ともされ、特に藤原宮の造宮に当たっては、東・西・北の三方にそれぞれ香具山・畝傍山・耳成山が位置する立地が、宮都を営むうえでの重要な条件にされたと考えられています。

大和三山を詠んだ和歌は多く、重要な歌枕として観賞上の地位を確立したほか、近世の地誌、案内記、紀行文などでも紹介され、万葉世界を代表する名所として、広く知れわたるようになりました。

畝傍山は大和三山の中で最も高い山で、瀬戸内火山帯に属する死火山が、二次的な浸食をうけたことにより現在の形となったものです。記紀によると、畝傍山の麓は初代天皇と伝えられる神武天皇が宮をひらいたところとされ、万葉集にもそのような歌が残っています。



畝傍山を詠んだ万葉歌

玉穂 畝火の山の 檀原の

日知の御代ゆ【或は云はく、宮ゆ】

生れましし

柿本人麻呂（巻一・二九）

※玉穂

美しい穂を首（うね）にかけるの意で、「畝火」の枕詞

※日知

神武天皇のこと。「日知」は農耕の日を知る意で、広く聖に用いる。

檀原市教育委員会

奈良森林管理事務所



雑木林の中 山腹を南側から巻きながら30分ほど登ると頂上 2013. 5. 25.

















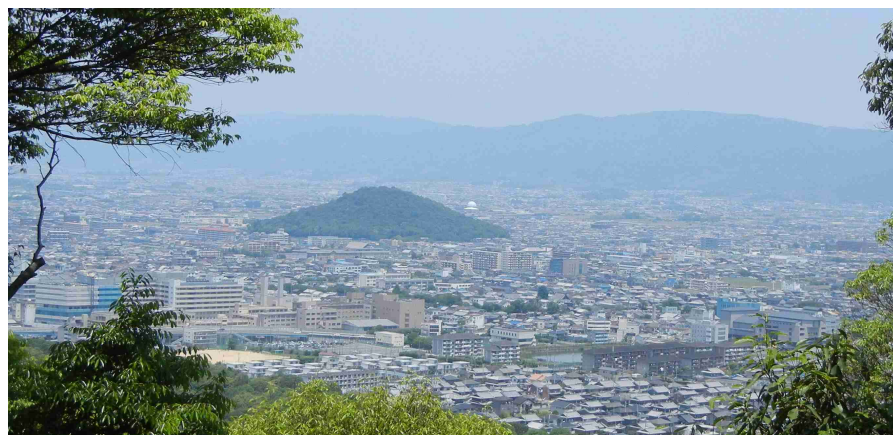




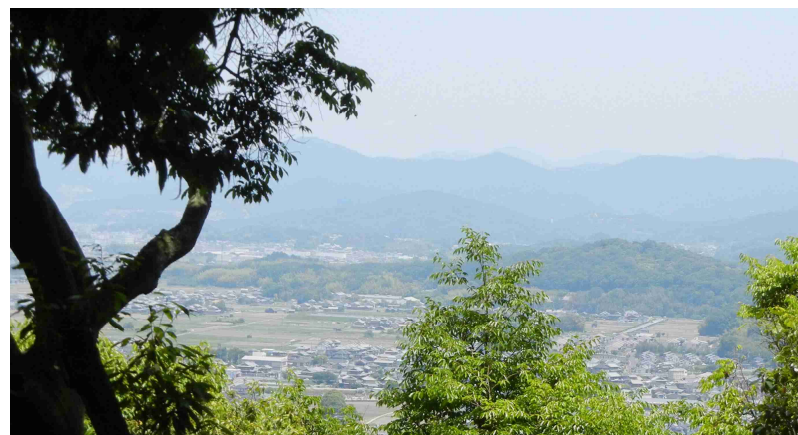
奈良盆地西南部とその背後にそびえる金剛山・葛城山・二上山 畝傍山より 2013. 5. 25.



明日香から眺める 金剛山・葛城山・二上山を背にする奈良盆地西南部遠望
写真中央 手前左:甘櫨丘 手前右:雷丘 右端:畝傍山



東方面 大和三山 天香具山

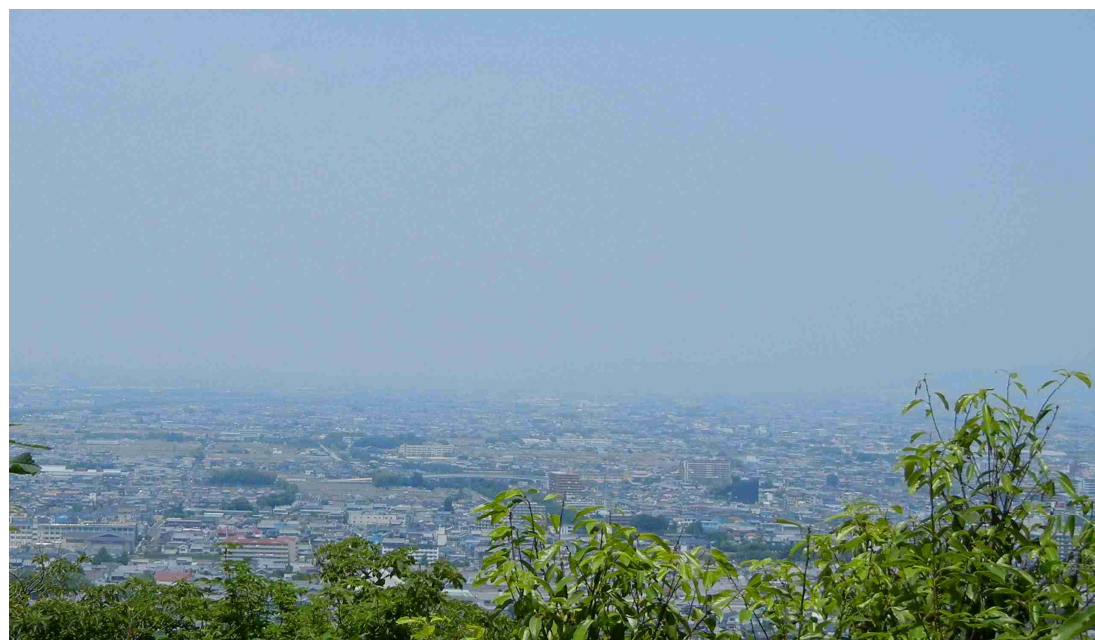
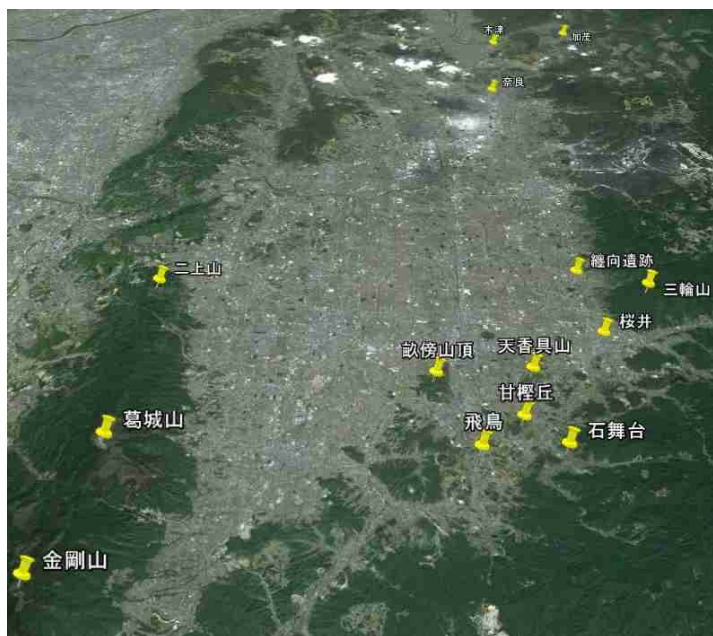


東南方面 飛鳥甘櫨丘

大和三山「畝傍山」から眺める「くにのまほろば 大和」の展望 2013. 5. 25.



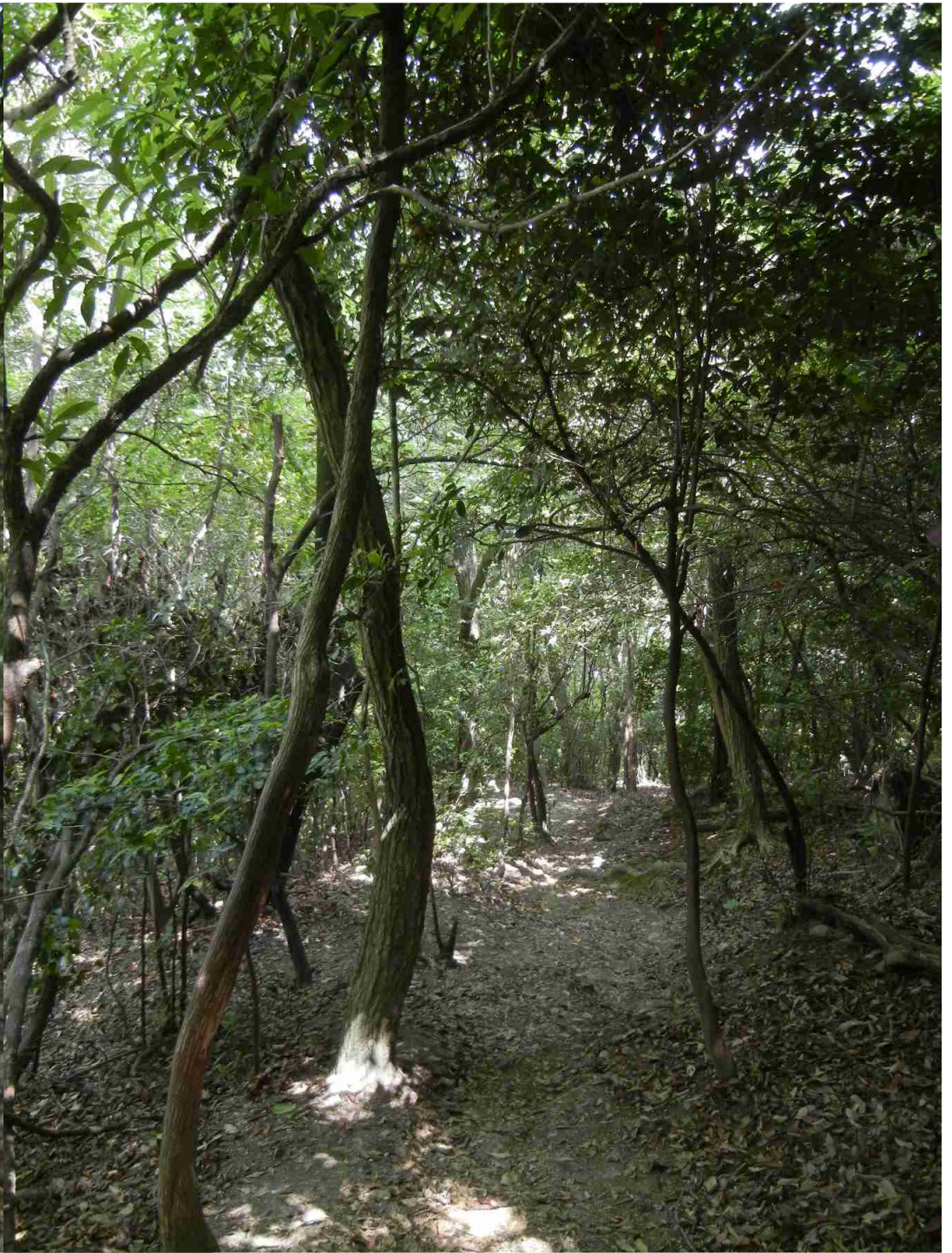
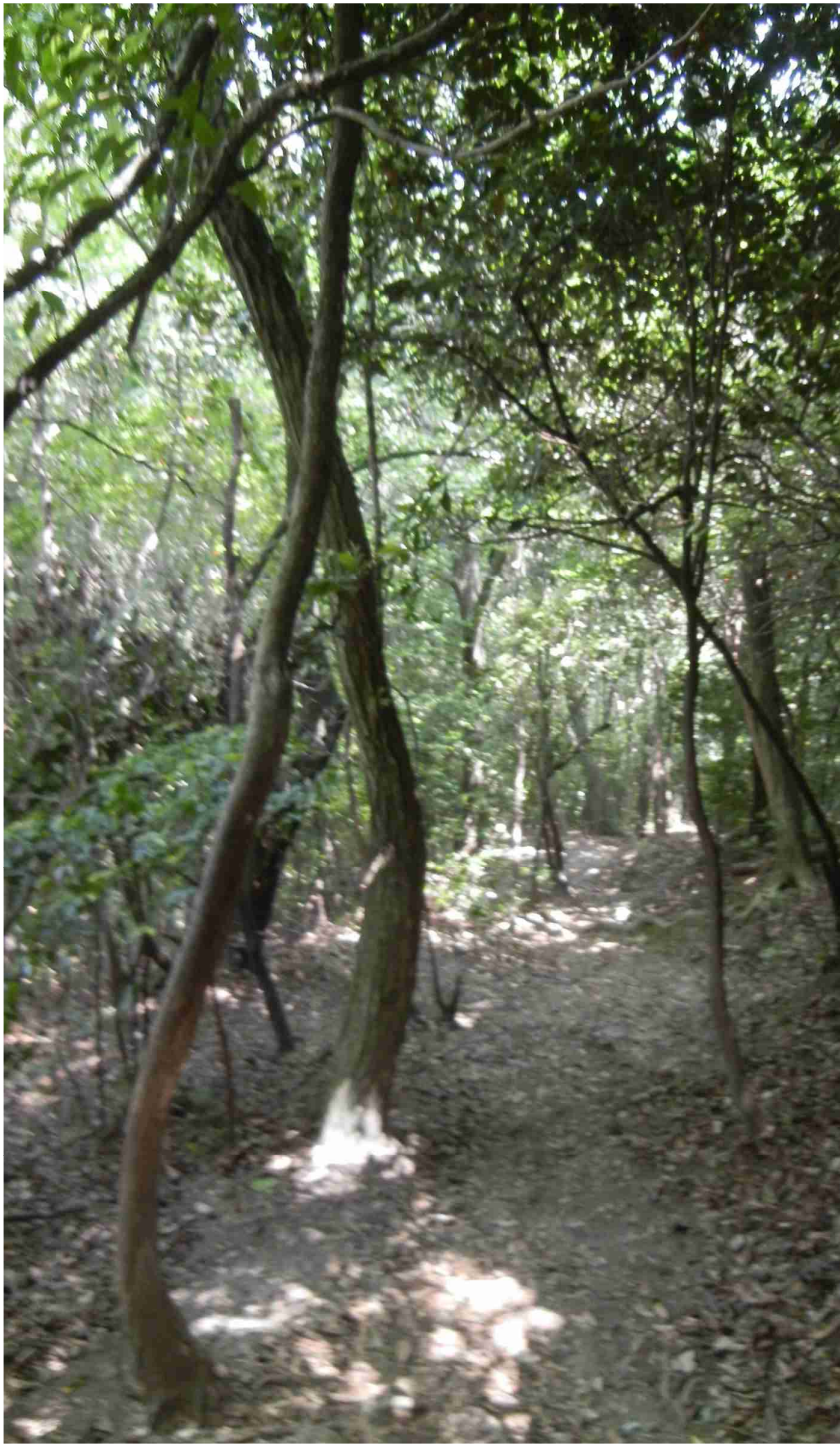
奈良盆地西南部とその背後にそびえる金剛山・葛城山・二上山 畝傍山より 2013. 5. 25.



畝傍山の北側の八木今井町方面



帰りは畝傍御陵前へ まっすぐ東へ降りる道を選択 登りの巻き道と違って、急な下り道





30分ほどで畝傍御陵の横へ降りる 2013. 5. 25.



午後 飛鳥周遊バスで飛鳥の地を巡って飛鳥奥山の飛鳥資料館へ 2013.5.25.







飛鳥の石造物は、飛鳥周辺に残る飛鳥時代に石で作られた遺物・遺構の総称で、飛鳥資料館の前にはそのレプリカが展示されている。

以前は謎だった酒船石も関連遺構が見つかって謎がとけはじめた。
でも 謎だらけの飛鳥の石造物 丘に座って その謎を考えてみるのですが…

久しぶりの飛鳥 いつ来ても新鮮で、おもしろい場所である。

以前 キトラ古墳の壁画をみにきた飛鳥資料館 その展示の充実ぶりと一同に会している飛鳥の石造物が気に入りました。

須弥山石

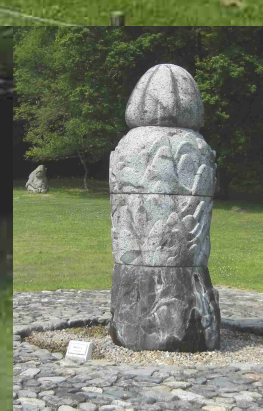
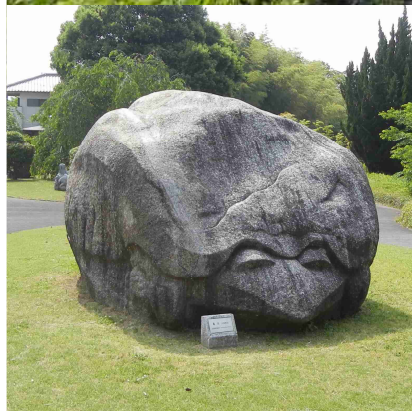
酒船石

亀石

猿石

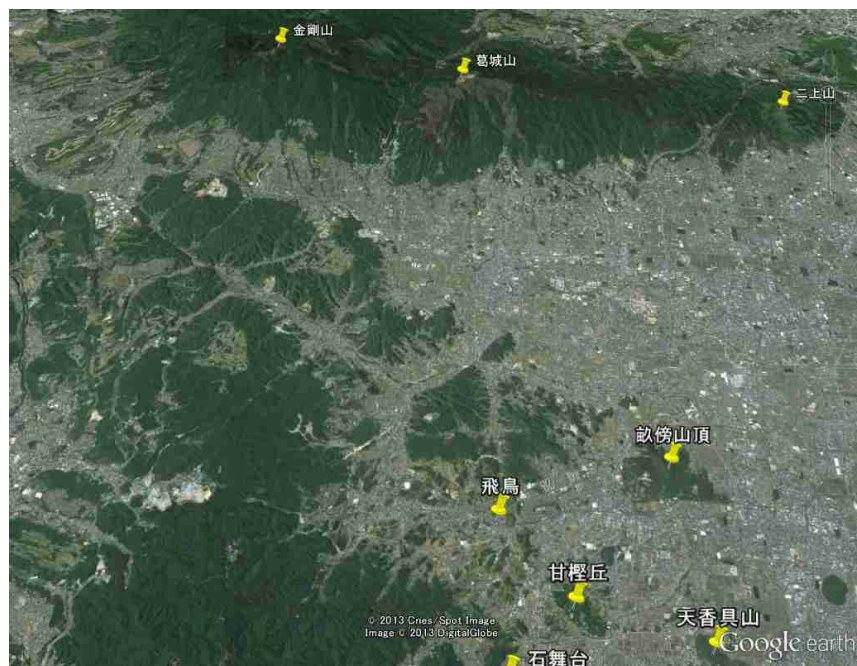
須弥山石

石人像





明日香から眺める 金剛山・葛城山・二上山を背にする奈良盆地西南部遠望 飛鳥奥山2013. 5. 25.
写真中央 手前左:甘樫丘 手前右:雷丘 右端:畝傍山



甘樫丘の横より 南方面 飛鳥川



飛鳥はいつも歩くのですが、今回近鉄1dayパスについているバスチケットで初めて巡回バスに乗りました。橿原神宮前から飛鳥の主要遺跡をほぼすべてを行ったりきたり巡回して飛鳥駅に行くバス。乗客は数名 楽チンで観光バス気分で飛鳥を一回りできました。 2013.5.25.